



8月 ほけんだより

平成26年 第165号



子どもの気になる行動について

1. 子どもの発達や行動で気になっていることや、悩みはありませんか？

当たり前のことが、うちの子はなぜできないの？どうしたらできるようになるの？
…と育てにくさを感じることはありませんか。

- 言葉がおそい
- かんしゃくをよくおこす
- 新しいことが苦手
- こだわりがある
- 人見知り・場所見知り
- 乱暴
- オムツでないと、排泄ができない



- 部屋を飛び出す
- ことばのやりとりができない
- 一方的に話す
- 友達と遊べない
- 集団生活になじみにくい
- ルールが守れない
- 落ち着きがない
- 体や手足の動きがぎこちない

日常生活は特に問題なく過ごせるけれど、集団の中で人間関係やコミュニケーション、あそびなどに困難が見受けられる子どももいます。そんな子どもたちの中に「発達障害」と呼ばれる特性をもつ子どもがいる場合があります。

発達障害は、年齢や生活、保護者の育て方や本人の努力不足が原因ではありません。

これらの障害をもつ子どもは、ある部分の能力は全く問題がなかったり、むしろ優れていることもあります。得意なことと苦手なことのアンバランスがあるために、障害があることに気づかれないこともあります。

- 「がんばればできる」と思われ、無理な努力を強いられたりすることがあります。
 - 「言うことをきかない子」「しつけができない子」などといった目で見られることがあります。
- その結果、子ども自身や保護者も自信をなくしたり、やる気をなくしたりします。自分からの「助けて」のサインを出せないつらい思いをしています。

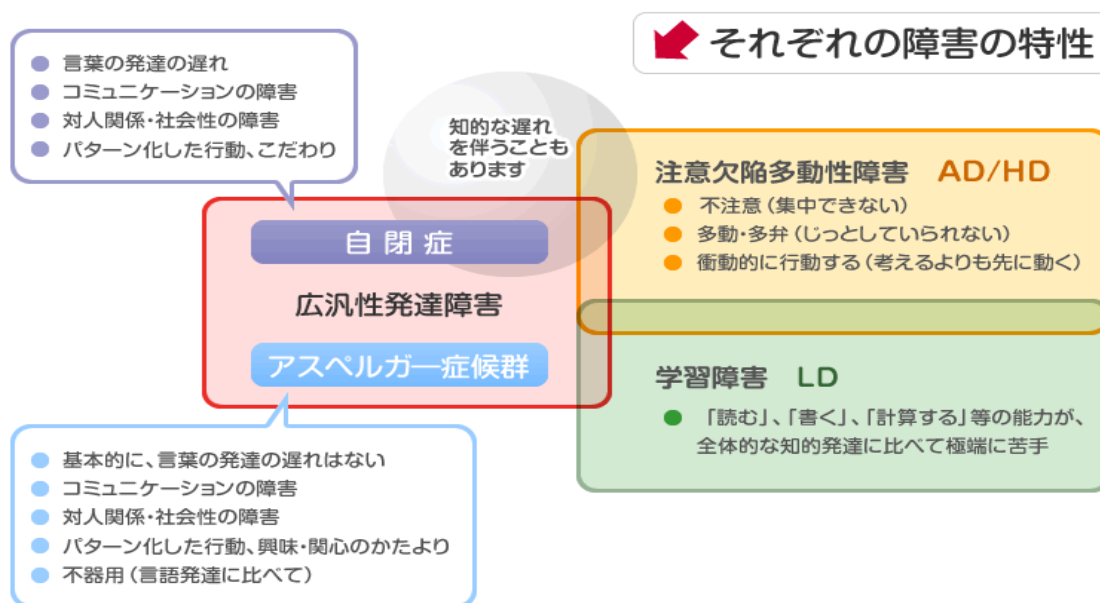
子どもの気になる行動があれば1人で悩まずに、早めに保育所（園）・幼稚園、保健センター、かかりつけ医などに気軽に相談してみましょ。本人の特性にあった支援や環境を整えて、子どもが毎日いきいきと過ごせるようにしていきましょう。



2. 発達障害とは

発達障害は、脳機能の発達が関係する生まれつきの障害で、多くの場合、精神遅滞(知的障害、精神発達遅滞)、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(AD/HD)、広汎性発達障害(自閉症、アスペルガー症候群など)の4つを指します。

これらに共通するのは、一定の発達・行動上の特徴が幼少児期からみられ、原因は脳の先天的な機能異常であるということです。



発達障害のある子どもは、社会で生きていくために必要な社会性やコミュニケーションが苦手なため、幼稚園や小学校などの集団に入ると様々な問題や困難に直面することになります。またその行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」、「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。



3. 「二次障害」について

適切なサポートがされないと、学校に行くことがストレスになり、不登校や引きこもりあるいはやがてうつ病になったり、非行に走ったりすることもあります。これを「二次障害」といい、もともともって生まれた発達障害を正しく理解してもらえないために、「ふたつめ」の障害が生じてしまったという意味なのです。それが、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障害によるものだと理解すれば、周囲の人の接し方も変わってくるのではないのでしょうか。

周囲の人たちが発達障害を正しく理解して子どもにあった支援をすることにより、「二次障害」を防ぐことは十分可能です。

発達障害のある子どもが、社会に適応する力を身につけながら自分らしく成長できるようにするためには、発達障害に早く気づき、適切な療育につなげることが重要です。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>